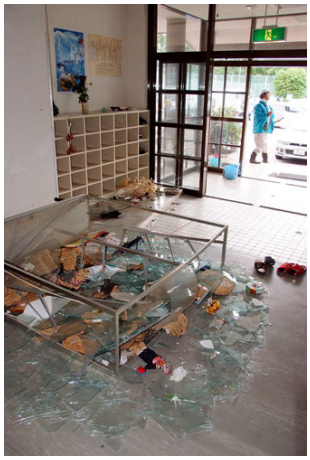
*EIMY*湯本地域協議会だより　号外　地震特集号

平成22年10月14日

地震被害にあわれた方々にお見舞い申しあげます

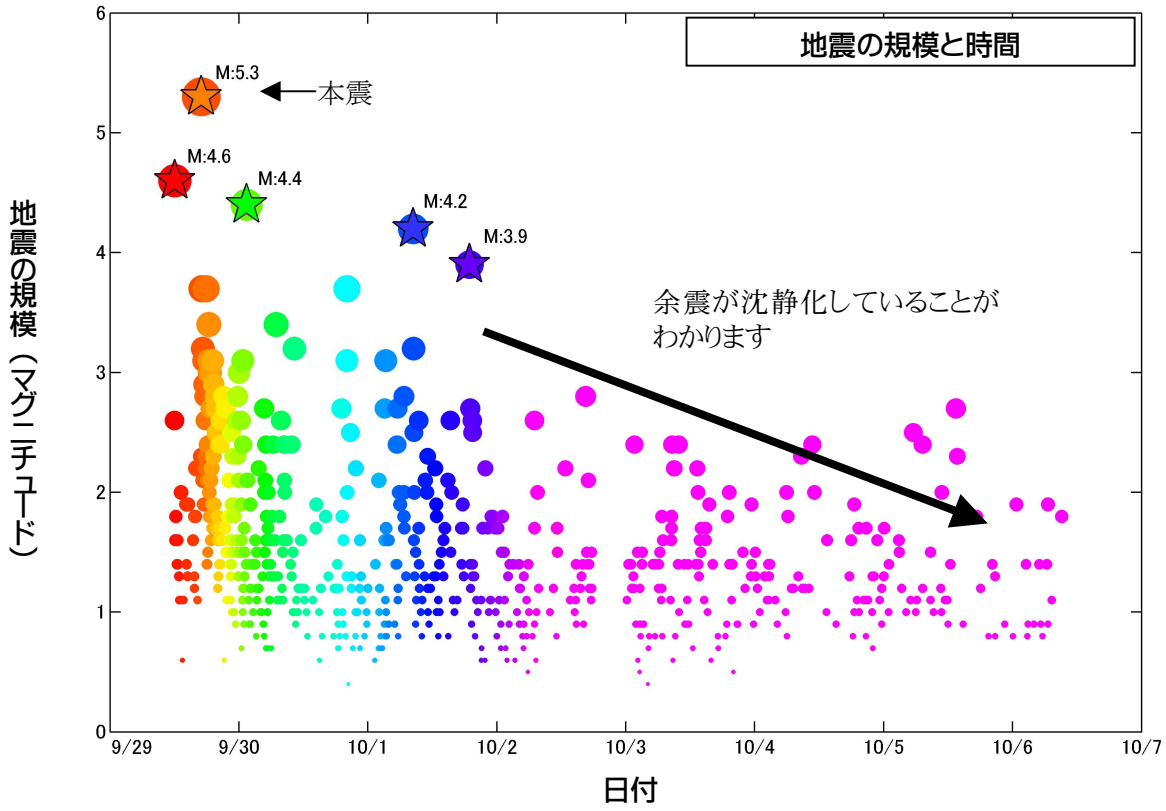


9月29日夕方に発生した地震では、たくさんの方が被害にあわれました。心からお見舞い申しあげます。

今回の地震は直下型地震で、湯本地域のみに被害が出ています。そのため、テレビや新聞での扱いも小さく、なかなか詳しい情報が入りませんでした。当初、天栄村の震度は3と発表され、実際のゆれかたと発表された震度との差に疑問を感じた方もいたことと思います。また、現在も余震が続いており、不安を感じているかたが多くいらっしゃることと思います。

EIMY 湯本地域協議会では、東北大学新妻研究室から今回の地震について詳細に解析したデータをいただき、新妻弘明教授からお話をうかがいましたので、「*EIMY* 湯本地域協議会だより」の『号外』というかたちでご紹介したいと思います。

・・・



Q.地震はこのあとどうなっていきますか？

A.上の図面は時間をおって地震発生の状況を示しています。一つ一つの丸印はそれぞれの地震を表し、上にある丸ほど大きな地震であることを示しています。これに見られるように、時間がたつにつれて、地震の大きさも数も次第に小さくなってきており、このまま終息に向かうと思われます。

Q.なぜ湯本で起きたのでしょうか？

A.ご存じのように、日本列島には太平洋プレートが東より押し寄せており、本州中北部はこれに押しつぶされた状態になっているため、今回のような直下型の地震はどこでおきてもおかしくありません。今度の地震も逆断層と言って、地面が東上方向に突き上げるように動き、これが日本列島にかかっている力によることを表しています。

Q.これから注意することはありますか？

A.このような地震は、いったん地震により力が解放されれば当分起きることはありません。しかし、今回の地震によって生じた地割れに雨水が浸入すると崖崩れや地滑りがおきる可能性がありますので、しばらくは注意が必要です。なお、今でも余震が続いていますが、慣れてくるとどちらの方向から来た余震かおおよそわかるようになります。

M（マグニチュード）：地震の規模を表す量で、震源のすぐ近くではこの値と震度がだいたい一致します。マグニチュードの値が1つ増えると、地震の規模は10倍になります。

・・・